

## 謙一から幸子あて（一九四四年一月一〇〜一三日の記）

十月十日（火）曇。

快晴と云ふのはめつたにないものです。今日はまた曇り。

昨日の蘆花公園ピクニックは、道案内なしであつたために、往復二時間半もかかりました。実さいは片道四十分かそこらで行けるのです。尤も途々むかごとつたり烏瓜をとつたり、大分実質的なことをやり乍ら、その為に食ひ物に一番熱心なN君の如きは、ぬかるみへふみこんで泥まみれになつたりし乍らだったので、時間のかかつたのもやむを得ない。公園は木が多くて、ややうす暗い感じだが、それだけに落ちついた閑静な所ですね。家もひろいし、堂々たるものです。さすがに明治文壇のほひもする。栗を焼くにほひがして、「クン／＼シヤクにさわるな」とふんがいでするのは例によつてN君。「いいにほひぢやないか、そんなに怒らんでもいいよ」「他人が食つて僕の食へんのはシヤクや。どこかに落ちてないかな。キヨロキヨロ、ガサガサ」。T君は所有本能の強い小児性を發揮して、せか／＼と行きつく先や弁当食ふ場所ばかりさがし、我々が八木君の子供のためにどんぐりをひろつてやつたり、やぎの牧場で立留つたり、「之は楢で、之はくぬぎで、之はどん栗だ」と八木君が説明するのを感じしたり（何だか八木づくしで、誰かが八木節をうたへば完成しさうだが）、要するに別種の小児性を發揮するのと対立して、一人神経を尖らせたり丸めたりしました。帰りに北沢の馴染の農家で、まるでおみやげのやうにスカートポテトとかぶらを準備してくれてゐました。ポテトは一人当り五百匁ぐらゐりました。

今日は慶応大学経済学研究室の未知の人から手紙で、「プランテーション制度」の内容についてたづねて来ました。僕の「アングロサクソン民族」のアメリカ史に「実に興味深く感じ」、今度の読書新聞の広告で、その内容を早く知りたくなつたので知らせほしいと云ふのです。助手か何かの若い人なんでせう。利ちゃんのやうな字でかしまつたやうに書いてあるので、僕もすぐ返事しておきました。

あなたのお手紙（No.10）はおひる近く届きました。

和歌山からの手紙について大分あなたの御機嫌を存じましたが、僕の立場もいつも辛いのです。あなたは昔から和歌山のことで、僕を責めるやうな言葉をよく口に出したし、僕はそのことでは大部分弁護乃至弁解的な立場に立たざるを得

ないやうな風になつて来てゐたので、今でもそのくせが出るのです。あなたが僕の両親のやりくち、と云ふよりやらなくち（無反応）について不満気な言葉を出すと、何だか僕が責められてゐるやうに感じるのです。このことはあなたと僕との心理的間隙を深めて来た一つの要因にも見られます。結局、和歌山の両親は僕自身でないのだから、何とかあなたに、あの人達をああ云ふ人達として悪意に解さないやうに、いはば理解してもらひたいとかう云ふより外に仕方がない。だがそんな云ひ方ではあなたの不満をみたし得ないやうに感じたりすると、つい母へ書いてしまふのです。今後は注意しませう。

メリヤスのシャツやモモ引はありさうです。スプリングもこちらです。チョッキは之からジャンパーだけでは寒い日にほしいと思ひます。

「プランテーション」の表の見方が全く出来ないらしいのは困つたものです。之は一々説明する必要がありさうですね。表19aの場合は、第一行がプランテーション数三九、〇七三（総計）、その中小作農の数で大きさを分けると、小作農五一九家族のものが二六、五八二、小作一〇一―一九が九、一六〇――第二行は右のプランテーション数総計三九、〇七三を一〇〇・〇％として、小作農五一九のものはその中六八・〇％、全一〇一―一九のが二三・四％――第三行は地主農場が総計三九、〇七三、之はプランテーション数と同じわけです。各プランテーション内に必ずプランター自身の農場が一つはあるのですから。第四行は右のプランテーション内の小作農家族総計が三九八、九〇五、従つて一プランテーション当り小作農数は一〇・二、こんな風になつてゐるのです。その中、信州へ行つて一々質問に尽ませう。表に出会つた時、気持を防禦的に消極的にしないこと、この表、またわからないのだらうなどと思はず、逆にこんな表がどんな現実をあらはしてゐるのかと積極的に関心をもつ必要がある。表は現実を集約的に一目リョウ然にあらはしてゐるものだから、文章で頭には入りにくいことを、最もハツキリ具体的にあらはす手段なのだから、シリゴミせずむしろ表の方が面白い（之は事実解釈の面白さでなく、事実そのものの面白さ）と思ふくらいになりなさい。表を見る時は、上のランと横のランとをよく注意し、何をあらはしてゐるかをよく考へることが必要です。

十月十一日（水）曇。

今日は此の分室の図書整理日でまる一日、全員四千冊の本のつめかへをやりました。此の分室では、本の整理は資料係の女の子（前は臼田君）にまかせつきりで、その為に臼田君が身体を悪くしたのです。僕も自分が二階にばかりゐて、

下のことによく気がつかなかったのですが、昨日、臼田君にかはつて資料係りになつた足立君が、坂巻、古田両嬢と三人で一生ケン命に本をはこんでゐるのに、男連が一向無関心に新聞を読んだり、駄弁つたりしてゐるので、僕が黙つて手伝ひには入り一しきりやつたが、相かはらず他の男連は手伝ひはないので業を煮して、「足立君、まだうんとかかるかい」「ええ、どうもすみません」「そんなら皆に手伝つて貰はう、本をもちほびするのに女だけちや無理だ、また臼田君みたいに病気になる（ここまでは声は大きくしたが、専ら足立君に向つて云ひ、ここから開きなほつて、他の男連に向ひ）、どうです、男手であつさりやつて了ひませんか、独研の方は本のもちはこびは皆男だけでやつてるやうですよ、忙しければ手伝つて下さい」、こんな風に云つてやつと一、三人が手伝ひに参加したのです。それが昨日のこと。今日はさすがに全員参加して、すつかりつめかへを終わりました。足立君はよくよく嬉しかったとみえて、何度も何度も礼を云ひました。だが今日も一番働いたのはかく云ふ僕で、足立君が感謝するのも、我乍ら無理はない。モンペとジャンパーの身仕度が一層かひくしく見えたと思ひます。

午前中ひろちやんがホウキ(カ)を持って来てくれたので、取つておきのカボチャ一つと、カブラを若干とをおみやげに進呈しました。彼の下宿も野菜難で困つてゐると云ふので。

皆が帰つた頃、鶴田君が訪ねて来て、大東亜圏の宣伝雑誌「Globe」(英文)に原稿を書いてくれと依頼に來たので引受けました。その雑誌は参謀本部の息がかかつてゐて、支那その他大東亜圏のインテリゲンチヤを対象としてゐるが、支那のインテリゲンチヤ等は知識水準が高くて空疎な宣伝では無力なので、学問的にガツチリした論文がどうしても少くとも一つか二つないと駄目なのだと云ふのです。部数三万で、この九月に第一号(上海で発行)が出たばかり、僕は十二月号にのるわけです。相手が大分變つてゐるので、ダイヤモンド日報とは全然筆法をかへて、書いてみるつもりです。

十月十二日(木)曇。

毎日天気はつきりしない。

今日は肉の配給がありました(経堂へ来てはじめて)。さといも、しひたけ、こ(か)うやどうふと一緒に煮て、おいしいおかずが出来ました。臼田、古田両嬢に若干たべさせたら、上手に煮てゐると云つてほめました。古田嬢は此の頃、N君を嫌つて、顔を見るのもいやだと云つてるのださうで、すきがあると僕等の部屋へ来て、肩を叩いたり(N君の前

ると肩がこるので)、シューベルト歌曲集を見たりしてゐます。古田君と云ふのは五尺五寸あるさうで、桃ちやんのやうな少女つばい感じのいい子です。二十才です。来てまだ十日にしかならないのに、自分の部屋のN君をさう神経的に嫌ひになつては困るので、白田君もしきりと説得して、神経的にならぬやうに云つてゐるのださうです。N君は足立君にも大分深刻に嫌はれ、本人は一向気がつかないのに、女の子達から総スカンをくらつてゐるのは、どう云ふわけかといささか不思議です。T君も相変らず総スカンをくつてゐるが、之はT君も気がついて、僕なども忠告したので、以前ほど空気が険悪でなくなつた。いづれにせよ女の子と云ふものはむつかしい。

十月十三日(金)曇。

あなたの手紙、来ない。「近きより」とダイヤモンドの松沢氏からの手紙としか来なかつた。

白田君が森井さんの手紙を届けてくれました。ゴッホの絵が二枚(大原コレクシヨンの)は入つて、あなたへも一枚さしあげてくれとあるので同封します。彼女がこの春倉敷へ行つた時買つたのださうです。彼女も身体の具合が悪く、よく寐込んでゐるさうです。「そのうちにそのうちにおしやべりに上ることを考へながら時をつくれないうでゐます」とありました。白田君の意見では、「森井さんは余り女と云ふことにこだはりすぎるのぢやないでせうか」とのこと、「森井さんはびつくりするほど女らしい人ですわ」とも云ふ。さう云ふ白田君はどうもやはり男の子の感じです。ネールの西洋史、イリンの人間の歴史、オプロモフ主義、ゴリキーの母等を読み、今「四十年」を読んでゐます。「パデーギン」を次に読む筈。パデーギンは、僕がバルザックをすすめるのと同じくらい誰かれかまはずすすめたので、この分室では竹中、足立、八木の三君が読んで何れも感激し、それをきいて本室の資料課の梅田君が読み、この間、本田さんといろんな話からパデーギンの話をしたら、彼もむやみに読みたくなつたらしく、梅田君が読み終らないのに持つて行つて了つたさうです。森井さんは今アンジェロ・ハーンドンの伝記を読んでゐます。早川君は今レーンの心理学を読んでゐます。白田君と古田君とに、宇宙、恒星進化説から人間の歴史まで、話すことにしました。朝一時間早く出て来ると云ふので、隔日にやります。尤も本がないので、座談式にやりませう。古田君は昨朝僕が「魔王」の練習をしてゐたのをきいて、今日「魔王」のレコードをもつて来てくれました。

足立君がやめることになりました。僕が発議して餞別をあげることにしました。結局僕が品物を選ぶことになりました。白田君が天文館へ行きたいと云つてゐたので、今日は連れて出て、先づ天文館へ行き、ケテルスで昼食して、資生堂で

葉皿（木の葉の形の大皿）金二十二円也を買ひました。それから本室へ行き、資料課で本を借り、庶務課へ寄りますと、課長がちよつと話があると別室へつれこむので、何事ならんと行つてみると、「近頃分室の様子はどうですか」と云ふのです。之は階下でT君対女の子その他に大分険悪な空気があつたのが、本室の耳には入つてゐたのでせう。「此の頃別に大したことありませんよ、T君の神経質は相変らずだが、T君自身自分が女の子に苦にされてゐることを感じて、近頃大分抑制してゐるやうだし」「外の人とは？」「外の人？ ああ、それならやはり心配要りませんよ、僕の出張の時T君が余りわからんことを云つた時はちよつと外の人も怒つたけれど、その後は平穩です」と云ふ風な話になり、更に足立君がやめた後、人を補充出来ないもので、古田君を下へおろさうと思ふがどうだらうと云ふので、別に異議ないと答へました。「古田君も先生（N君のこと）の前でゐると大分肩がこるらしいから」「Nさんは古田さんを余り使ひすぎはしませんか。あの子は身体が強くないのだから。」「僕もそれはN君に直接云つておきましたよ、新しい人だから、まじめにやりすぎて根をつめると病気になるから。」実際N君は古田君を自分の見える所へ置きたがつて、之にいろいろ仕事を与へるので、昨日は僕が皆のゐる所で、「古田さん、そんなに根をつめたら駄目だよ、やすみ／＼やらなきや」と古田君に云ふと共に、「N君も余りやらせるのはいかんよ、古田君は身体が強くないのだから」とはつきり釘をうつておいたのです。

以上の如く、この頃では僕がこの分室の人事関係を調整する人間に、いつの間になつて了つたのです。僕の原因は、何でも直接本人にずば／＼云ふこと、男性と女性との意思通じないのを心理学的説明と大脳生理学の説明とで若干ユーモラスに、彼等をして互ひに相手を理解するやうにさせること、女の子の代弁者になること、掃除や何かは自分でやること、之等です。男は中々頭がかたくて（N君などは蛙の顔に水をぶつかけたくらいにしか効かない）駄目だが、女の子は大分よく云ふことをきいて、皆僕の忠告にしたがつてゐます。

以上のやうな人事関係の処理は、実はあなたに学んだ所の活用なのです。あなたは僕の如上の可なり長い叙述の中に、あなたの鉄工聯でやつたことの複製版を見出した筈です。尤も僕はO型だから、自分ではこんな風にうまく行つてると思つて満足してゐても、実はどこかで抜けてゐるかも知れないけれど、とにかく僕の部屋は依然として、この分室の弱者の避難所のやうになつており、そのことは本室でも知つてゐるらしい。これから益々さうなるでせう。何故なら、この部屋が一番明るくて、あたたかく、広々してゐるから。その代り仕事はやはり進まない。新しい原稿もかかえて、いかにこの仕事を切りひらくかを苦心してゐます。臼田君はもう立教、帝大、上野等で本をうつして来たり、秋野君がや

つてみたことに近いことが出来るやうになるでせう。  
 明日は伊藤新一君が訪問して来る筈です。沢田君は浦和支局づめになりました。

では又。

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月一四日の記・消印）

十月十四日

血液型六種

〔 ABO血液型、MN式血液型、Q式、E式、  
 排出型、非排出型 〕

普通には血液型と云へばABO型の事を云ひます。

ABO式血液型とは、

血液型は血液の型の事を意味する丈でなく、一個人の血清学的の体質の事を意味します。血液型は遺伝する形質でA・

B・Oの三つの遺伝因子があつて、三つの中の二ツが寄つて一人の血液型を形成する。一般には血液型にはA型、B型、O型、AB型の四種あると考へられてゐるが、遺伝学的に云へば表現型と因子型の区別がある。

表現型と云ふのは血清学的に定める事の出来る血液型で、因子型は遺伝子型とも云ふ。即ち遺伝学的に分類する血液型である。因子型の分類だとOO型、AA型、AO型、BB型、BO型、AB型の六種からなり、常に二つの遺伝因子の結合から成立する。父の性細胞（精子）と母の性細胞（卵子）からの遺伝したものである。同じ因子から出来てゐる血液型を同型接合体（Homozygote）と云ひ、異つた遺伝因子から出来てゐる血液型を異型接合体（Heterozygote）と云ふ。O・A・Bの遺伝因子を持つてゐる性細胞を配偶子（Gamete）と云ふ。

此の前、血液型の事が手紙にあつたので、簡単な血液型の話を抜き書きして差上げ様と思ひましたが、あまり興味ないでせうから、これ位にしませう。

今日は腸のゆ着の手術をしました。盲腸手術の不てぎはから小腸が腹壁にゆ着してしま

| 表現型 | 因子型   |       |
|-----|-------|-------|
|     | 同型接合体 | 異型接合体 |
| O   | OO    |       |
| A   | AA    | AO    |
| B   | BB    | BO    |
| AB  |       | AB    |

つて、腸の活動がわるくなり、慢性腹痛の女の子です。手術はゆ着の分をはさみで切り離す丈ですからかんたんですが、其の他に異常はないかと、腹の中を全部ひろげて見たので手まどりました。切り口はおへその下の線のあるところを恥骨まで切りますから、割合に広くてぼうこうや卵巣などすつかり見せてもらいました。

来客（長尻の）つづき、今日は病院もお勝手も夕方掃除も配給の薪運びもあつて、疲れました。夕方疎解荷物六個とどきました。机は南原さんに足をつけて貰ひませう。椅子は当分あのまゝしまつておきませう。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月一四日の記、一六日の消印）

南部問題感想

③の終り頃十一行目から最後までの意味がくみとれない。「公然たる反対を惹き起した」と云ふのはむろん南部派議員側からの意味でせうね。ルーズベルトの選挙を目当のスタイルならば、南部派がやつきに騒がなくてもよささうなものを。又、以前の時の様に妨害するなり、骨抜きにする手があるだらう、ではありませんか。ルーズベルトの政治政策が選挙のための一時的なスタイルなら、それ程の心配は無用の様に思はれる。民主党はルーズベルトをおとりに国内改革的政策をかかげて、自党から大統領を立てれば、一後日都合よく出来るだらうと思はれる。此の疑問は⑤へゆき、ルーズベルトの政治家としての説明で、又々、尚はつきりして来ます。彼は改革的な政治家でなく、一むしろ帝国主義的な政治家なら、一さうして国民に改革を約束するスタイルをとる丈の人なら、南部派出身議員が猛反対なんかしなくてもよささうだと思はれます。

以上の疑問は⑩へ行つて解決されました。何故スタイルでも彼等を（南部派）刺戟するのか了解出来ました。全体の構成、中々映画的な展開です。

(一)で、戦時下の人種暴動、ルキジアナの例

さうして大きく共和国のあざである奴隷制度の残存形態が目の前にうつし出される。

(二)目下の国内政治の重要問題に移り、労働、人種問題が浮き出す。軍隊へ、工場への黒人の大量進出―それが軍人投票権案、そしてそれへの反対、罷業弾圧法の通過となる。まだ影の主人公（南部派）ははつきり登場せず。

(三)大統領選挙の年毎の社会矛盾の浮び上り、今年度の問題提起、食糧助成金案―南部派の反対、将兵投票案―南部派の

反対、改革的なものへの反対。

(四)主人公の登場、其の正体、其の勢力、一人一人の描写し。

(五)まとめて、彼等の政治的傾向、ブロック、ニューデイル、それへの反対運動、ルーズベルト、其の本質、彼の政治的ゼスチュア。

(六)カメラは南部へゆく。面積、人口、所得のパーセンテージ、文明的な全合衆国との南部のおくれ方との対比。

(七)いよ／＼テーマにはいり始める。

南部派の保守的・反動的な理由、パーセンテージを用ひた選挙制度の展開、<sup>(寡)</sup>頭権力の成立―中央政治への勢力、長老委員長の顔。

(八)南部の基礎をなす奴隷制度(テーマ)

アフリカー奴隷船―プランテーション―プランターの武装―軍隊の起り、奴隷制度とアメリカ憲法、奴隷制度と南北戦争。

(九)アメリカ資本主義の反動化の第一歩

黒人等の再建のたつきつぶし、奴隷に代つたクロツパー、そも／＼プランテーション制度とは、プランテーション制度の悪結果、クロツパーの説明(もつと精しければ尚よろし、こゝではし方がないけれど)。

(一〇)人種的偏見

ブラツクベルト、プランテーション制度維持のための外枠、カメラこまかければ尚よし、保守主義の根源はここにある。

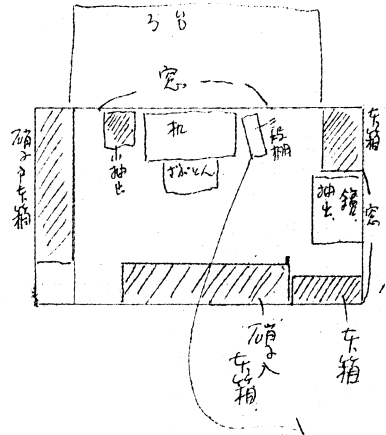
(出)まとめ

中々面白くわかりやすく(言葉)大変有益でした。雑ばくなどとはとんでもない、とても立派だと思ひます。短い中によくこれ丈を巧みに展開出来たと思ひます。講座にして映画でみせたら、とてもいいと思ひます。

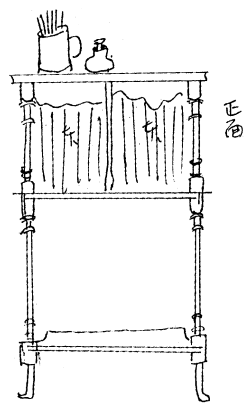
十月十四日。

今日は御手紙来る日だと心まちして居りましたが、<sup>(たうま)</sup>とう／＼来ませんでした。今日はひどい風、終日廊下の硝子戸は鳴りつづけました。二階の私の部屋は、午前中は蒼つぼくて寒いのですが、午後は夕飯ころまで窓一杯日がさして暖か





① 内容  
 ② 石箱  
 ③ 石箱  
 ④ 石箱  
 ⑤ 石箱  
 ⑥ 石箱  
 ⑦ 石箱  
 ⑧ 石箱  
 ⑨ 石箱  
 ⑩ 石箱  
 ⑪ 石箱  
 ⑫ 石箱  
 ⑬ 石箱  
 ⑭ 石箱  
 ⑮ 石箱  
 ⑯ 石箱  
 ⑰ 石箱  
 ⑱ 石箱  
 ⑲ 石箱  
 ⑳ 石箱  
 ㉑ 石箱  
 ㉒ 石箱  
 ㉓ 石箱  
 ㉔ 石箱  
 ㉕ 石箱  
 ㉖ 石箱  
 ㉗ 石箱  
 ㉘ 石箱  
 ㉙ 石箱  
 ㉚ 石箱  
 ㉛ 石箱  
 ㉜ 石箱  
 ㉝ 石箱  
 ㉞ 石箱  
 ㉟ 石箱  
 ㊱ 石箱  
 ㊲ 石箱  
 ㊳ 石箱  
 ㊴ 石箱  
 ㊵ 石箱  
 ㊶ 石箱  
 ㊷ 石箱  
 ㊸ 石箱  
 ㊹ 石箱  
 ㊺ 石箱  
 ㊻ 石箱  
 ㊼ 石箱  
 ㊽ 石箱  
 ㊾ 石箱  
 ㊿ 石箱



す。

此の棚、中々いいでせう。もとはブリタニカの本箱らしい。英国製でがっちり、スマートです。

今日は下痢のため病院の方は休みましたので、午前中、あなたのモンペ下を一枚縫ひました。其の中送ります。胴はひもでしめる様にし、前ボタンのところは何もつけませんでした。上にモンペなりズボンをはけば、スナップはいらないでせう(目下、スナップが一ツもないので)。

此の前、くろい銘仙で縫ったダブルモンペを送った時、ゴムベルトをいれた筈ですがあつたでせうね。あれは大事にしまつておいた大切な品なんだけど、一特別にあげたのですから、そのつもりで使つてね。色もよかつたでせう。

謙一から幸子あて(一九四四年一〇月一四〜一五日の記)

十月十四日(土)晴。

今日もすばらしい快晴。夜明け方、五時前に目がさめて、まだ暗かつたが露台へ出ると、文字通り眼のさめる空の美し

さでした。オリオンが南中して、プレアデス、ヒアデス両星団はもうかすかでした。アルデバランの赤、カペラの黄、ペテルギウズの赤とリゲルの白、双子座ポルクスの橙とカストアの白、プロシオンの純白、シリウスの青白、レグルスの黄味がかつた白、そして双子座には土星の赤、獅子座には木星の巨大な白銀、その西に月齡二十五、六の月、之等が次第に乳青白に明るみを増して行く暁天に、淡い銀河を中軸にしておかかっているのです。東の地平からあかみが増して、乳青白を次第に溶かしながら星々が一つ一つ消されてしまふまで、太陽が濛気の使者にたくしてその最初の光輝をほとばしらせるまで、秋冷の朝風にふるへさうになり乍ら見つけました。中学時代に星をあふいで浸ったエクスタシーとは、これのやうな感じなのです。

午前中に伊藤君から電話があつて、今日夕方遊びに来ると云つて来たので、白田君に星座を直接教へると云ふ一ヶ月来の約束を、今宵果すことにしました。東日天文館の説明者は声が下品だし、説明のしかたが俗っぽくて、星や天文への何らの真実な愛情も持つてゐるらしく見えないので、それにやはりプラネタリウムには本當の天空の雄大さも生き生きした宇宙の精気も全然求められず、おまけに電力節約か何かで大分暗いので、僕がわづかしかもたない断片的な知識でも、本當の星々への自然への愛情を以て説明する方がきつといいと思つたのです。

昼間はふとん干し、いもの切干、カボチャの種干し、そして自分の日光浴と云ふ風に金色の太陽輻射を思ふ存分活用し、伊藤君と白田君とに御馳走すべき粟を白田、古田両嬢に手伝つてもらつてむきました。粟は数日前から、頼まれはしなけれど落ちたまま虫にくわれたり近処の子供に荒されたりするよりはと思つて、僕と小使君とが朝夕の火を起す間にひろつて、一色さんのために保存しておいてあるのです。一色家の主人公は此の間の風のあつた日の翌日、御殿場から来てすつかりすみへまで拾つて行つたのですが、そのあと僕達のひろつたものだけで三升か四升あります。その中若干は労賃として僕達でもらふわけです。今夕の栗飯のために三十個をむきました。

伊藤君は五時前に来ました。大豆の砂糖いりを持つて来たので、火の起るまではそれを三人でたべました。大豆は一ヶ月ぶりの対面でなつかしくうまかつた。火が出来ると先づさつま芋をふかし、出来上ると今度はあづき（一昨日から冷してあつた）を煮て、次にそのあづきを入れた米を炊き、ふき上つた所へ栗と塩とを入れてかきまはし、暫くしてそれをふとんにすつかりくるみ、今度はおかずとして柿の皮の煮汁へ里芋を入れて煮、ふき出した所へしひたけ、凍豆腐、カボチャ、煮干等を入れました。伊藤君も僕と同趣味で、何でもごちやくくにぶち込んで煮たものが好きなんです。ミソもシヨールユもソースもすべて入れてほしいと註文が出ましたが、それは余りに複雑すぎて、我々の味覚はついて行け

ないだらうから、保守的に一般の慣習に従つてショーユだけにしました。白田君は元來信州の人間で、関西趣味(?)乃至は「生活力旺盛者」の趣味または悪趣味をもたないが、この頃、僕のガンバリ粉、チコリ、ショーユのもと、ココア、カボチャ、ナツパ、ミノ等の渾然と融合したムシパンの味の理解者になつて来てゐるのです。古田君も白田君も近頃出勤が早くて、大たい僕の朝食のすまない中に来るので、日本一のキビダングを若干わけ与へて、いつか鬼ヶ島の征伐につれて行くかも知れません。

煮物が嗅ぐからにうまさうに出来たので、今度は菜葉のおひたしを作りました。書くのは簡単だが、それだけに二時間近くかかったのです。そのかはり御飯はふつくり出来上るし、三人のおなかは絶好の受入れ態勢になるので、食べてみて飯のうまさに我乍らおどろく程でした。伊藤君の如きは芯から驚嘆してゐました。

誤解をさける為に云つておきますが、之等食事の仕度はすべて僕がやつたので、白田君は途中火が消えさうになつたのを、灰をかき出して炭を足して復活させたことと、あとでカボチャの種をいつておしいつまみものをつくつたこと、とにだけ手伝つたのです。そしてその間一人に星を教へ、一人に世界情勢から文学、日常生活、仕事等の話題の相手となり、美事な主人ぶりだつたのです。いろんなことを話しながら、この二人が友達になればいいのにとちらと思ひました。

プレヤデス(すばる)が出て、アルデバランが出て、オリオンも間もなく出さうな時まで、即ち夕方、西にしづみかけた夏の名残の星々から、やがて上つて来る冬の星のさきぶれまで、秋の星座を一通り実物教育して、九時半頃(それまで伊藤君と碁を一局やつた)二人を送り出しました。伊藤君も仕事が目白さうで、のび／＼してゐます。僕は三人の饗宴のあとかたづけをすつかりすませて、今、あなたへの手紙を書いてゐるのです。此の頃ちつとも来なくなつたあなたの手紙を明日へ待ちつつ。

十月十五日(日)晴。

久しぶりのお手紙有難う。

手術も日常生活も、早苗ちゃんのおもりも、中々忙しさうですが、また楽しさう(?)でもあるので安心です。僕は今日から新しい原稿のために一骨折りしませう。

台湾も大変ですね。秋気と共に肌と心とのしまるのを感じます。だが歴史を学ぶ人間として、僕は根本的に楽天的で

す。自分の身に関する限りは全く望みなきに近くとも、人類と云ふことを考へ、歴史と云ふことを考へると、今程晴れ晴れと明るい気持ちになれることはかつてなかつたと云へるでせう。

あなたの手紙、何か落丁があるやうです。島谷君の手紙のことから、突然に誰かスターキングデリシヤスを持つて来てくれた人の話になつて、ぽつんと終つてゐます。

早苗ちゃんがあなたになつたのは僕も嬉しく思ひます。太郎の骨は、あれからひろちゃんやあつちやんにいろ／＼當つてもらつたが、今どこも納骨堂が満員で駄目なのです。駄目ならやはり之は僕が持つてゐようと思ひ、タンスに入れてあります。あなたの所へおく方がいいやうでしたら、その中持つて行きます。と云ふのは近日中、小使さんが補充されるので、さうなれば二、三日休みをとつて信州へ行けると思ひます。来月になつて、空襲その他の危険のなささうな頃、行くつもりです。

ダイヤモンド日報の感想有難う。今度書くのは同じくらしい分量だが、ずつと學術的にガツチリ書くつもりです。民族問題（支那）の立場から。

アメリカの支配者が北部の財閥であることは真実です。だがアメリカ資本主義が危機的 downward に入り、国民の自己組織と批判とが成長して、金融資本の金権政治が従来をやうにやつて行けなくなると、彼等は国内の一切の遅れた制度、反動的勢力を自分の支柱に求め、かくして一九三〇年代（恐慌後時代）の金権主義者とプランターとの同盟と云ふことになるのです。遺制と云ふものはいつもこのやうに働くのです。心理学的にも、抑圧された慾望が「遺制」の如くに残つて持続する時には、之は心理の健全な発展を阻害すると云ふことは、あなたも読んだばかりでせう。

「プランテーション」も大分進んでゐるときいて嬉しく思ひます。数字を、少くとも数字への嫌悪を克服してくれたのは何よりもいい。

女の子達にはなるたけ世話にならぬやうにしてゐます。彼女達はだん／＼僕がいい「お弟子」になるでせう。その中、朝の講座をひらく予定です。古田君は月曜から下へ下りるけれど、朝一時間早くと、帰り一時間おそくとを、ここへ来るでせう。今までどほりに。

今日は夕方四時頃、ピアノをちよいと叩いてゐたら、いねちゃんか甲斐甲斐しいモンペ姿であらはれました。おいしいムシパン（「生活力旺盛者」的でなく常識的においしい、だがやつぱり本当においしい）をおみやげに。僕の方では、いも、くり、柿、カボチャ等を夫々の味を最も生かして（即ち柿以外はただふかすだけで）御馳走しました。昨日来れ

ばもつと複雑な御馳走が出来たのに惜しいことをしました。いねちゃんの仕事の話をいろ／＼とききました。六時から防空訓練があつて、兩戸をありつたけ閉めて、食べたり話したりしました。八時に防訓がとけたので、星明りの夜道を駅のそばまで送つて行きました。ずい分寒くなつて、ワイシャツとジャンパーとモンペだけでは、風邪をひきさうでした。だが今年の冬を耐寒せねばならないので、まだ毛布だけでねてゐます。

佐藤君からのハガキで森ちゃんが痔で入院してゐることを知りました。此の頃ハガキが買へず、極めて不便です。

天文の通俗書（黄色い本）で七冊そろつたのがあつたでせう（看護婦さんの部屋かしら）。あれの中の「恒星篇」（第三巻か四巻）だけ一冊、おついでに送つて下さい。ドイツ語の自習書はこちらにはありません。今度の荷物の中かもしれません。若しないうら、今度都心へ出た時さがしませう。ではおやすみ。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月一五日の記、一六日の消印）

十月十五日。

昨夕から今朝へかけて温度が急に落ちました。もう客間と茶の間には炬燵が作られました。尤もまだ火は這入らない様です。東京も同様の気温でせう。あなたの冬の下着のこと、二度程おたづねしたつもりですが。こちらには毛入りのズボン下は三組ありましたのに、上着（シャツ）はあなた用の一枚もみつかりません。洗濯屋にいったまゝなのか、送る途中で失つたのか、—こんなに急に寒くなると、どうしても急いで必要です。それで白い毛糸シャツ（今年の冬に私が散々に使つた）を送りますが、これは実は私の冬用にと思つてゐたものです。ですから若しかそちらに毛のシャツが何枚かあつたら、御めんどうでも、つい手のある時、お返しなすつて下さい。（私が帰る前、原宿のセンタク屋に出してあつた白ネルのシャツは戻りましたかしら。）

涼しくなつたら急におなかがよくすく様になつて、毎日おさつだのお焼だの、粉つばい物をどつさり食べ、お弁の御飯も追加をするようになりまして。

お手紙九日附のNo.7から後、毎日まつてゐますが来ません。どうかなすつたかしら。

台湾や琉球の凄いき襲、まもなく本州へ来るのでせうね。東京空襲を思ふとゾツとします。天にかくれ地に潜んでも、其の日を自分の目で見ると云つておるのですから、危いからこちらへいらつしやいと云へないし、心落ちつかぬ気が

してゐます。欧州戦局もひつぱくしてゐますし、昨日のモルゲン(モーゲン)相案とか云ふのを見て暗いき持です。日本に対してはもつと苛酷にやるでせう。新聞を見てゐるとソ聯の政治(軍事も行政も外交も)が、はつきりしたみとをしあつて行はれてゐる様に思はれますね。もう二、三年後のヨーロッパはどんな風になるでせう。

すこし夜更けるとオリオンが良く見える様になりましたね。オリオンが見えたとすぐに寒さが結びついて思い出されま  
す。経堂天文台では矢張り毎晩観測が続けられてゐますか。寒くなると星は美しくなるが、長く眺めるのはめんどう  
になります。夕方散歩も、夕方があまり短くなつたので、食後は歩く時はもう暗いので自然とりに止めになり、目下家の中  
にばかりで、二階の廊下の窓から伊那山脈を眺めるだけになりました。

プシはどうしたでせう。段々寒くなるのに。いつそ死んでゐてくれた方がましです。こちらのクロもフクももう十四位、  
ねずみをとりました。小ねずみばかりですが。  
では今日はこれでさようなら。

### 謙一から幸子あて(一九四四年一月一六〜一七日の記)

十月十六日(月)晴。

お手紙有難う。

あなたの忙しさが、あなたの健康と両立する程度にとどまるやうに。近頃あなたの僕への関心は大分うすらいだやうで  
すね。それがあなた自身の生活建設のすすみつあつたこと証拠であるなら結構です。僕は毎日郵便受けをのどいては  
失望し、漸く見つけても、その内容のおざなりに失望してゐます。僕は自分の仕事にあなたの手紙が必要、いやあなた  
の僕への愛情の証拠が必要なのだが。

「プランテーション」も緒論は抽象的なことを書いてゐるから、読み辛く理解が難渋でも、あとは事実を書いてゐるの  
だから、何はともあれ一気に読み通してくれるだらうと思つてゐたのに、その心配もなくとも深い失望です。この調  
子なら誰にも読んでもらへさうになく、余り本の出ることに関心がもてなくなりつつあります。一つの著作でも、それ  
に対する僕の愛情の消長の何とさまくなことかと思ひます。書いてゐた最中、一月から三月までは、自分の労作への  
僕の愛情は情熱的だったが、出版会でひつかかつてゐた四月五月にはそれがさめ、どうでもいい気になり、その間に書

いた第三、四章も一向油（油）がのらず、七月になつて校正が出はじめると、また愛情が復活して早く出ればいいと思ひ、再校の頃はそれが高潮に達し、その後あれが出て読まれる時の一般の反響の下見としてあなたに読んでもらつて、一向はかばかりの反響を得ないことから、また熱がさめて来たと言ふ具合です。

読むのがそんなに苦勞なら、もうよして下さい。感想もせつかないし、待ちもしません。それより独立戦争に改めて全力をうちこみませう。實際「ブランテイション」の方は、書きなほせるなら殆ど全般に亘つて書きなほしたいくらいです。内容の基本的な所は、あれからあと別に新しい材料も新しい考察もないけれど、叙述様式は全般的に書きかへたいのです。僕の叙述様式の根本的欠陥は、あなたの之までの感想と、あなたをまだいや／＼しか読ませることの出来ないことではつきりわかりました。独立戦争には新たな方法をとらうと苦心してゐます。

こんな風に書いたからと云つて、嫌味にとつてむりに読んだり、むりに感想をひねり出したり絶対にしないやうに。そんな感想は僕の新しい精神的緊張の何の刺戟にもならない所か、失望させることによつて自信を失はせることによつて、障害物にしかならない。かう書いたことには、あなたへの不満よりも、あなたをすうら一気に読む気にさせることの出来なかつた、自分の叙述力の貧困への嫌悪（之は今、独立戦争を書く上に毎日毎日いやと云ふ程感せしめられてゐる）が主として働いてゐるのです。

だが不愉快なことは考へることもよませう。今度「Globe」へ書く原稿は、ダイヤモンド日報（之は決定的に駄作です）とは全然書きかたを換へるつもりです。その為は今、「Manifest Destiny」と云ふ本を読み始めてゐます。アメリカの東亜政策の基本性格に、「マニフェスト・デステイニイ」があること、云ひかへればアメリカ資本主義は、伝統的に中南米とアジアとに向つており、その象徴として「マニフェスト・デステイニイ」がかざされてゐること、そしてこのマニフェスト・デステイニイこそ奴隷主プランターの侵略的信条であつたこと、ここから奴隷制度の歴史とそれのアメリカ帝国主義とのからみあひとを展望してみようと思つてゐるのです。

もう夜は寒く、火がほしいくらいです。今日から小使さんが新しく来たので、夜の外出も自由になつたが、寒いから余り出ないでせう。炭の配給はまだありません。米の配給もないし、この辺は一般に配給物は一番悪いやうです。北条君の奥さんがいつか、成城で米の配給が五日遅れて、ちよつと騒ぎになりかけたと言つてゐるが、この辺も大体同じ程度の状態なのでせう。

十月十七日（火）曇。

寒くて陰気な日です。祭日だと云ふのに。

午前中、利ちやんが来ました。来月は千葉へ一ヶ月勤労働員ださうです。彼も此の頃肥つたやうです。

ゴリキーの「四十年」やつと第三部へ来ました。白田君が「母」に感激して「四十年」の第一部を終り、追っかけてるので、あはて気味です。「四十年」の中の人物はすべて我々自身または我々の周囲の連中に似てゐて、全くそのみにくさ、みすばらしさに時々嫌になります。さう云ふあぶくのやうな連中の浮きつしづみつしてゐるあの歴史時代の壮大な波の面白さが、僕を「四十年」からはなれさせないものでせう。ゴリキーはもつと読まないといけないやうです。「フオマ」をかりて来てゐるから、「四十年」の次に読みませう。

今日もあなたの手紙が来ない。

僕は来月の中旬頃、信州へ行くかも知れません。別に用はないけれど。

一つコンロを買ひました。普通の粘土とセメントとをこねあはして作つたやうで、ガツチリしてゐるかはり甚だ重くて、一々下へもつておりたり、また持つて上つたりするのは大変です。之でも新しい小使さん（五十才くらいの夫婦者）が大分ならんだのださうです。金五円なり。安いのではないかしら。

新しい小使さんと云ふのは、今までの小使さんの妻君の両親なのです。亭主君の方はちよつと島村君が米屋か何かして、年をとつたらかうもならうかと思はれるやうな感じの（こんな所へ島村君を引合ひに出すと怒られるでせうが）人の好きさうな、体格のがつしりした六十近い人（顔や身体つきが若干島村君に似てゐる）で、今朝も折から帰京中の一色虎児氏と庭で大きな声で話しあつてゐたと思つたら、早くも芝生の一角をきれいに切りとつて、防火プールの黒土の縁へうつつうえ、そのあとを掘り返してうねを作りました。「旦那（僕のこと）のおつけの実ぐらいつくれますよ」と云つてゐた、その畑にするのでせう。妻君の方は小柄で色がくろく、背がちよつとかがんでゐて、頭の髪油の匂がプン／＼して、おちよぼ口でくり／＼の眼をした、抜けめなささうな五十女ですが、そのオチヨボ口は甚だ発火しやすい速射砲で、一旦サクレツすると、その辺にころがつてゐる石ころであらうが何であらうが、片つぱしから弾にこめてパン／＼とめどなくつるべ射ちするので、僕も防弾チョッキが必要です、

午後から雨になりました。露台から観望すると、はるか彼方にそそり立つふるやのアントツからけむりが出てるので、之から風呂へ行きませう。



では早苗ちゃんによろしく。桃太郎を送らう〜と思ひつつ不精してゐてすみません。

では又。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月一七日記、一八日消印）

九月十七日（水）曇―雨。

今日は婦人会の遠足で、さくらさまとかへゆく筈でありましたが、曇つてゐたため止めましたら、まもなく雨になりました。大勢出かけたらしいから、何処かで雨にあつたでせう。知つてゐる人はほとんど有りませんが、それでも遠足はし度いと思つたのです。

病院は十六日定休を、十七日に繰りこしました。本日休業と看板を出しても、誰もそれに注意しないらしい。患者は相変わらず、休みなので何時もより多い位でした。早苗ちゃんと郵便局へ小包み（あなたの冬着）を持って行つたら休みでした。

午前中は二階でフラビエの「女生徒」だのホーソンの短篇を読み、シューベルトの冬の旅を四枚きゝました。

今日こそは何とか便りの来るような気がしてゐましたが、とうとう夕方になつても来ませんでした。病気が非常にいそがしいか、何か事故かと心配になりましたが、病気や事故なら、きつと臼田嬢が葉書でも下さるにちがひないと思ひ、心配しない事にきめました。

こちらは本当に朝夕寒くなりました。秋が東京に比べると短いのです。霜さへ下りました。もう稲刈が始まつて居ます。勤労奉仕の児童が鎌で指やら足やら怪我をして、ぞろ〜とやつて来ます。稲を刈つた後の田ンぼで蝗をとるのです。吉武さんや伊藤新一さん、元気でせうね。たまにはあの方達に逢ひたい様な気分がします。松沢正明さんはどうしたでせう。

ここでは毎日毎日、きまつた顔ときまつた話、極くごく範囲の狭い話ばかり、結局無人島にゐた方がまだましだと思へる時が多いです。邪まをされず気兼ねせず、自由に時間を使へるのは、随分いいことですからね。何をよんでも考へても、どうやら腸の自家中毒と同様の結果を起してゐるらしい。従つて何か書けば、一種のガスの発散みたいなものになるのでせうね。

午後はランティションにかかりました。時々中断されますが、それでもノオトを一〇枚位とりました。始め相当苦し

い阪<sup>阪</sup>を登つたので、よう／＼平地へたどり着いた様な感じがします。感想を書きたいものと思ひますが、どれも皆、目新しい知識で吸収する一方ですから、感想など書く祐佑<sup>祐佑</sup>はありません。書けたとすれば感嘆詞の連続になる位なものでせう。

「クロPPER」とは何と悲しい存在でせう。そして彼等の子供たち―楽しみかりし幼年時代は五、六才で終るのでね。尤もそれ以前だとて、意識したら楽しい事はないでせうが。小説をよんでゐる時にうけると同様なものを、あの硬い文章の中から感じます。

外はまだ雨が降つて居ります。今日のお夕食は鯉のうま煮（砂糖の代りはたんしやりべつ）です。東京の食糧事情は其の後如何？以前同様、加速度的に悪くなりますか。こちらでも段々押詰つて来ます。野菜は一度も買ふ事は出来ませんが、 $\frac{1}{3}$ は自家製のを、 $\frac{2}{3}$ は患者さんの貰ひものです。炭は疎解<sup>疎解</sup>児童へ、十月分は譲る事になりました。これからもう一時間位、何か読んで、床につきます。

ではおやすみなさい。

十七日夜

幸子

謙一様

幸子から謙一あて絵はがき（一九四四年一〇月一八日の消印）

十四日附お手紙並に絵葉書うけとりました。毎日楽しさうで何よりです。下着類はそちらにあるとの事ですから、送るのを見合はせました。伊藤さんに「家」の件、きいて下さい。

十月十八日

謙一から幸子あて（一九四四年一〇月一八日の記）

十月十八日（水）雨

お手紙No.13、14拝受。

昨日は少々ヒス手紙を出しました。原稿がすすまないとヒスになります。だがあの手紙に書いたことは本当です。「プランテーション」にしても何にしても、自分の之まで書いたものの悪文ぶりにつくつくいやになつてゐます。どうしてもつとスツキリ書けないのか、結局頭が悪いのでせう。俳句や和歌をくさしたけれど、俳句で日本語の勉強も必要なのかも知れません。

「南部問題」の感想を有難う。ルーズヴェルトを改革政治家でなく、むしろ帝国主義的政治家と規定したのは、Censorshipへの考慮からです。本当は彼は Bourgeois 政治家としては、歴史上殆ど最大の Democratic な政治家の一人でせう。一九三六年の選挙の時などは、決定的に国民的立場に立たうとし、国民的支持によつてのみ再選されたのです。だが、彼が結局 Bourgeois 政治家として、その Democracy に徹底し得ず、動搖的であることも事実です。そして Democracy に徹底し得ない結果、国民的立場へも徹底し得ないし、しかも国民対金権主義の抗争が激化して中間的存在が困難となる時、さう云ふ動搖性は、帝国主義政治の中へのがれざるを得なくなるのです。で、彼が国民に対して改革的ゼスチュアをするのも、実は国民の圧力がそれを強ひるのであり、国民としては一つの獲得を意味するのです。国民の側の獲得は、反動勢力にとつての退却です。だからプランター等はゼスチュアにも反対せねばならなくなる。政治と云ふものは力と力との抗争を含んでゐます。国民的圧力が強ければルーズヴェルトは改革的になるし、反対側が強ければ反動的になる、しかも金力へ依存する方が事は簡単です。何故なら既成の機関をすつかり利用出来るから。

僕の之までの叙述方法の欠陥の一つは、現象的なもの個別的なものから、本質的なもの普遍的なものへの上昇が、最短路をとらなかつたと云ふ点にある。現象的なもの個別的なものからは入ると云ふことは、芸術作品の一般的法則だが、歴史叙述にも適用してあやまりでないと思ふ。だが、その現象なり個別なりは、本質なり普遍なりへ、直通してゐるものでなければならぬ。最も印象的な入り口から直ちに本体へは入るやうな方法、之が大切です。所が僕のはちつともさうでない。本題へは入るまでにずいぶん分づづする。之は実は自分の認識の過程を、そのまま辿りすぎるのです。自分の認識はいつも鈍く、まるで星雲の最初の運動のやうに、漠然たる運動から進むのだが、認識の成果を叙述する為には、その最初の漠然たる運動は必要ではない。

歴史叙述は凡ゆる科学と同じく、先づ個別からは入る、だが最も本質的な個別、細胞のやうな個別からは入るべきである。この原則を見失ひがちの結果、現実のダイナミックな態様を再現出来ず、雑駁な迫力なきものになつて了ふのです。毛のシャツは三枚（一つはメリヤス）あります。ズボン下も三枚。ネルシキフは出来て来てゐます。たしかに近頃さむ

く、朝、火を起しに起きても、以前のやうに楽ではありません。さうは云つても朝や夜のさむい時でも十四度か五度で、今日は朝から雨ですが、今十七度です。信州とは比べものにならないでせう。だから今日始めてモンペの下に夏のステテコをはき、シャツももう暑い夏のアンダーシャツを着たのです。昨日までは下はパンツの上ですぐモンペだし、上は夏の袖ナシ(白い布地でこの夏作つてもらつた)とワイシャツとジャンパーと之だけでした。二、三日前に風邪をひいて若干気分が悪いので、今日は一枚づつ増した次第。当分これでやれるでせう。夜着もまだ毛布だけです。ふとんは十一月まで着ないつもりです。白い毛糸シャツは送りかへしませう。

僕達は警備召集と云ふのがあつて、空襲の時は二等兵として、高射砲陣地などへ召集されることになります。私服のままです。すめばそのまま解除と云ふわけです。今日ぐらゐに在郷軍人会へ届けて出ねばならない。空襲は相当テッテイのですね。台湾東方海上の戦果がもつと上れば、しばらく息がつけるでせうが。

今朝は六時に眼がさめたのにまだうす暗かつた。ムシパンにカブの菜葉を入れ、カブ自身は一緒に蒸して、ソースでたべたら中々うまかつた。二、三日客があつたら食物のストックは忽ち減つて了ひます。今はカブばかり。だが今日はまた何か野菜をかへるでせう。一昨日の夜から今朝まで、カブばかり食べて、とうとうソースをすつかりのんでしまつた。今夕はカブのシチュウみたいなものを作つてみよう。だが昨日風呂ではかつたら、十四貫二百ぐらゐに肥つてゐました。朝ちやんは就職しましたか。

では今日は之だけで投函しませう。  
之から手紙のNo.は裏へつけます。

### 謙一から幸子あて(一九四四年一〇月一九日の記)

十月十九日(木)雨

また雨、本室にゐれば防空訓練のある日です。

昨夜ははからずも国民酒場の列に加つて、戦果の増配祝酒を人並みにのみました。夕方もうぼつ／＼皆の帰る頃、八木君がニヤ／＼笑ひながら、それでも用あり気に僕の部屋へあらはれました。

「菊池さん、誘惑に来たんですがね」「誘惑?」「ええ、実は之から一ぱい飲みに行きませんか」「飲みに?どこへ?」

「ほらあの駅のそばの国民酒場ですよ」。僕はまっくらな横丁にガヤ／＼煙草をふかしたり駄弁つたりし乍らならんでゐる行列を想ひうかべて、どきもをぬかれました。あんな所へならぶのか。「国民酒場とは驚いたな、ならんでも本当にのめるんですか」「昨日から戦果の祝ひで増配あるんですよ、二杯か三杯のめるでせう。実はあなたと一緒だったら、二、三杯目には僕等に特別増配みたいな形になると思つてね、虫のいい話だが松村君と相談したんですよ。松村君は朝から、僕がきつとさう云つてさそふだらうと待つてゐたと云ふんですよ」「それぢや行きませう。だが僕は晩飯の仕度をしておいてからにしなきやならんから、ちよつと待つて下さいよ」「いやそれについてもう一つ虫のいい頼みがあるんですがね。実は今日買ったかぶらを煮て頂きたいんです。酒のさかなにね」「それなら一つうまいふかしかぶらを作つてあげよう。塩味でいいでせうね」「ええ結構です。それで僕達は之からならびに行きますが、あなたは六時頃来て下さい。六時半頃から始まるんだから」「よろしい行きませう」。

酒をのみたいわけでもなかつたが、この頃暫く行列にならばないので、久しぶりに多少毛色のかはつた行列に加はつて、彼等の時局雑談なり何なりをきいてみたいと思つたのと、人の好い八木君の酒のみらしい虫のよさに好感がもてたので、承知する気になつたのです。白田君はおさつが食べたいからと云つて、火を起すのを手伝つてくれて、五時半までにおさつもかぶらも出来ました。ふかしかぶらは実にうまく出来ました。それを白田君のベークライトのふたつき丼に一杯つめ、ハンカチに包んで五時半すぎに駅まで出かけました。国民酒場は駅のそばの鶴兔市場と云ふ、昼間は雑炊食堂をやつてゐるうす汚い所なんです。行つてみるともうすつかり暗くなり、市場の前の横丁にはシヤガンだり、かべにもたれたり、まだ列をつくつてゐない人々が、タバコの煙を夜目にももう／＼立て乍らガヤ／＼待機してゐました。之は探すのが大変だと思ひ乍ら、「八木君、松村君」と時々呼びつてキョト／＼二人を探しまわつたが一向わかりません。その中人々が四列にならび始めました。僕も半ばあきらめ乍ら帰らうかと思ひ思ひ、それでももう一度呼び歩いてゐると、「あなた、ここに一人分あいてゐますよ」と親切なのが列の中へよび込んでくれたので、ついフラ／＼とそこへは入つてしまいました。職工、自由労働者、店屋のおやぢ、会社員、自由職業者、隠居、紳士、和服の者、洋服、パリ、職工服、国民服、老若凡ゆる階層の男が馴れ切つた落ちつきぶりでありとめもなくしやべつたり、たばこをふかしたりして数百人、まっくらな中であらんでゐるのです。

「昨夜はよかつたですな、三杯のめたんだからな」「よすぎたんだよ、だからその話がわつと伝はつて、今夜はこりや大変だよ、五、六百人ぢやきかんな」「八百人分あるんだらう、今日は番号が若くないと一杯のめねえな」「ここはならん

でのみはぐれがないからいいんですがね」「それにここの酒はうまいよ、合成酒でもこの頃はうまくなつたな、こちらの舌がきかなくなつたのかもしんねえけど」「今日は何か戦果なかつたですか」「さう欲張んなよ」「大蔵省が酒の増配やるんだねえ、大蔵省とは驚いたねえ」「だけどすぐぐれなきや特配にならんなあ、まだ九月分ぐれないんだからなあ」「一緒にくれると特配になるね、一升くれんかな」「新宿ちや中々のめねえ、昨夜はやつとビール一杯のめたけどずい分ならんだぜ」「この間大嵐の日があつたでせう、あの日にこへ来てみたんですよ、あのどしやぶりの中に百二、三十人ならんでるんだから驚いた。中にはみのを着たのがあるんですよ、みのをね」「そいつはいいね」「飲んだのと飲まんとでは、翌る日顔あらつた時感じがちがふね、飲んだ翌日は顔がツル／＼してるが、飲まん日の翌る日はザラ／＼だよ」「毎晩三杯のましてくれると文句ないんだがな」「それにしてもぞろ／＼来るね」「心配すんない、八百人分あるんだ」「この辺にあきやねえか」「あきやなんかねえよ、後へならびな」ガヤ／＼／＼。酒のみの話は意地汚くて、のむ話ばかりで余り時局談が出ない。それでも食べる行列よりは、余あまいがあつて呑気呑気でいいです。「女のは入る行列の方が殺気立つていかんな」と誰かも云つてゐた。

「今日はおやちの来るのが遅いな」「大勢すぎるからどうやらうかて相談してるんだらう」「今日は特別に二杯づつませようかと相談してるんかもしんねえ」。云つてる所へそのおやちが提灯をもつてあらはれて、四列横隊へ番号をかけたのである。僕の列は七十五番でした。それが百何十番から二百番近くまであつたらしい。三丁ばかり四列でならんで了つたのです。総勢八百人近い。おやちは今日は大勢すぎるからいつもとやりかたをかへようと云ふ。「どつちにしませう、多数決にしますからね」。何がどつちかわからないのですが、「さうしろ／＼」「それでいい／＼」「何でもいいから早くしてくれ」と、結局さうなりました。どうするのかと見てみると、十番毎に区切つて四十人単位にして、その一番端の一人にくちをひかせるのです。僕達の群（七十一番から八十番までの四十人）は「七番」が当つて、「7」とかいた紙の旗が七十一番の前列の人に手渡されました。「七番ならけつこうだ、十何番になるとやり切れねえと思つてたんだから」「七番なら二三五、六十人目にのめるわけだな」。どこか若い番号のあつた群で歓声と拍手とがわく。「一番か二番があつたんだらう。うまくやりやがつたな。一番か二番なら二度ならべるからね」。やがて「おーい一番、前へすすめ」で「1」と書いた旗をもつたバーバリのひよろ長い中年男を先頭に、大分後の方から一列にならんだ四十人が、僕達の前を通つて酒場の方へぞろ／＼進んで行く。次は「2」番。「3」番は僕等より大分前の方にあつたらしいが、四番も五番もずつと後の方でした。すなはち早く来てでも駄目で、抽セン直前にかけて一番うしろへ列んだ連中でも、

二番目か四番目の群には入って早くのめるわけなのです。

暗くて狭くてがやく／＼ざわめく中を、みんな神妙に秩序正しく一列に進んで行きます。「四時からならんでゐたのに十六番だから情ないな、六百三十人目になるんだから、一人三分としても大変だね」「一群で十分としても十六番までには一時間半ばかりかかるな」「それぢや四時間半か五時間待つことになる。いやになつちやふな」「くぢは仕方ないよ」「さうだ、くぢなら仕方ないよ」「どっこいしよ、立つてるとくたびれるし腹がへるから坐るよ」。さう云ふ不偶な連中のボヤクのをききながして、七時二十分頃に立ち机でトツクリと湯のみ茶碗とにありつきました。一合七十五錢也だが中々うまく、冷だが、茶わんに丁度三バイぐいぐいと一息にのんで了ひました。仲間と一緒の連中は、つまみものか何かでちよいとたのしむやうにゆる／＼のんでゐるのもゐましたが、二回のむ野心の連中は、あつと云ふまにのみ終つてあたふたと別の出口に急ぎます。二、三人の女がひつきりなしにトツクリをもつて来て空のとかへ、茶碗と一緒に支給します。中々秩序整然としてゐるので、之から時々来てみようと思ひました。

折角持つて行つたカブラはそのままもち帰ることになり、たつた一合とはいへぐいぐい／＼のんで、そのまま勇ましく、誰かやはりたつた今のんで朗らかになつたオツサン連が「チカラノカギリタカハン、シヨオリノヒマデエ、シヨオリノヒマデ」と調子よくうたつて歩くそのうたに、思はず歩調をあはせて数回水たまりへふみこみ乍ら帰つて来たので、よくまわつて、家の近くまで来た時は船にでもつてゐるやうでした。それから冷えてはゐたが中々うまいふかしかぶら三人分（九個）と、冷飯とかぶらのみそ汁とで夕食をたべました。

ここの小使君も列んだらしいが、まだ帰つてゐませんでした。今朝きいてみると、三番だつたので二杯のめたんださうです。八木君、松村君もやはり三番でのださうですが、腹がへつたのでそのまま帰つたとのことでした。

九時頃にはすつかり酒の気はぬけてしまつたが、あれで六時半ちよつと前に行つて二、三番までにのめたら、大して時間つぶしにもならず、時々行つてみるのもよささうです。あなたには一向退屈な話で、なが／＼紙面をついやしてすみませんでしたが、うつ／＼うつ／＼この天気にも、こんな気晴し話もつい書きたくなるのです。

昨日の手紙で「南部問題」のNo.3の終り頃に「公然たる反対」とあるのは南部か、また選挙政策としてのゼスチュアなら、むきになつて反対するに及ばなからうと云ふ疑問がありましたね。第一の「公然たる反対」とは南部だけでなく、北部の共和党（財閥や保守派）も反対しました。第二にゼスチュアの要素があると云ふことは、ローズヴェルトの主張に不純な要素があることを意味し、その不純さの故に、折角改革的意図があつても「うまいことを云つて自分が四選さ

「それだ」と云ふ風な反対論を許すことになる。云ひかへると、普遍的意義をもつ改革を、自分の個人的欲望または自党の党派的政策の手段にすると云ふ点に批難の余地を残し、本来改革そのものへ反対したい反動連中は、「改革には反対と云ふわけでないが、ルーズヴェルトが改革を食ひものにするのがけしからんから、彼の政策に反対するのだ」と云ふ風に口実つけて、改革政策をつぶしてしまふことが出来る。すなはちルーズヴェルトが普遍的任務と自分の個別の意図との真の統一でなく、その不純な混同があると、反対派はその普遍への反対（之は国民の同情をひかない）を個別への反対（之は国民に若干訴へ得る、何故ならこの個別たるルーズヴェルトの意図が不純だから）のやうな形で公然とやることが出来る。ロシアの政治にはかかる普遍と個別との混同がなく、その真の統一があるから強力であり、ゆるぎがなく、自信があるのである。

今日は防空演習の筈だったが、防空壕が水たまりになって駄目なので、とりやめになりました。今日もまた一日かぶらの蒸したのを食べました。もう一日分ぐらいあるから明日もかぶら。  
では又。

謙一

### 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月二〇日付け、同日の消印）

此の頃の忙しさと云つたら―手紙を落ちついて書く暇ありません。従つてランティションも、一寸も思ふ様に進展せずゆううつです。今こそ油も乗り、数字のトラブルも克服して、あなたと一語に住み乍らまつぐらに勉強したいと切実に願ふとき、―それも出来ず（看護婦のやめたりの出はいり、たへまない来客、お母さんのカンシヤク、早苗のおもひへフーチヤンはキンローホーシ）、午後は手術、掃除は人手もへつて量はふへるし、夜も患者。

あなたの方は時間は朝から晩まで、若いお弟子もゐて、共同勉強の大張切りなんですよ。しかもうれし相にひけらかしてゐるところもあると来ては、私も「詰らんや」と云ひたいところです。あんまり疎外された感じましたので、少々不明朗になりました。でも、あなたのお弟子さん達、全くいい娘さんばかりですね。そして猛烈に熱心なお弟子さんたちで、あなたも心ゆくまで教へられるんですね。

古田嬢とかは本当にかわいい娘さんの様ですね。逢つて見たい位です。白田嬢ばかりをヒキキして特別扱なんかしてはいけません。白田嬢も随分エライ人ですね。もう秋野さん以上になつたんです。若くて理解力も語学の力もたつぷ



りあるから、指導次第でどん／＼伸びるのですね。あなたも今度こそ楽しみでせう。兵隊も徴用も来つこありませんし、結婚も当分は駄目ですから。女の子／＼と云ひますが、対等の人間として扱ひ、理解ある熱心な指導があれば、どんなでも伸びられるんですもの。他の男の人たちだつて、さう云ふ風にしたら、ずっと日本の女の人数般が伸びて来るんですのね。白田さんも勉強の楽しさや仕事の面白さに、どんなに張切つてゐることでせうね。Aさん―食欲の人ですか。除けものにされて、詰らながつてるんぢやないんですか。白田嬢も本当にまれな娘さんの一人でせうね。

私、あなたの此のごろの手紙から感じましたけど、あなたは勉強を媒介に個人的に親しくなりすぎてゐやしないかと思ひます。あなたは彼女がお弟子でもあり、助手でもあり、かわいく思ふのは当然であります。―矢張りあなた方は男の人と女の人であるのだし、女の人はたいに個人的に特別の存在を求め勝です。あなたが女の人によい協力者で、理解者で、指導者であつてくれる事は本当によい事で願はしい事ではあります。ともすると友人関係(特に女との)は、個人的になり恋愛にまで発展しやすいものです。私との場合もまあ、そんなところでしたから。でもあの時のあなたと、今のあなたは大変立場が變つてゐます。

私はあなたを信頼してゐますし、あなたの愛情を確信してゐますから、あなたに対しては一寸もキグを感じません。若いお嬢さんとはかくロマンティックに考へるくせがありますから。経験者であるあなたは一応その点を注意してゐて戴き度いのです。天文学の勉強のことも、結構にはちがひありませんが、どうもあまりに適切すぎる感がありますね。此のごろあなたはずつと星の事ばかり手紙に書いておるのでしたので、あなたが又星に憧れておるでなのかと思つてゐたら―白田嬢のためなのね。それでも結構ですけど、ロマンティックな憧れとか、あなたの始終書くエクスタシイとか―さうして時と場所、―あんまり二人つきりのフニキを作りすぎるのぢやありませんか。

私かうも感じました。あなたが或は意識してそれをやつたのか―それなら問題はありませんが。あなたの新しい原稿への熱情も、そこから湧き出したのなら、何をか云はんでせう。でもそんな風に思ひ度くありませんわ。

矢張り、あなたは私にとつての誠実な夫だと信じて居ります。私が詰らぬヤキモチを焼くのなら、どうぞたしなめて下さい。私はこちらへ来たくないのに、強制的に來たんでせう。あなたの勉強第一主義のためならと思つて、早くこちらにおゐて下さいと云ひ度くつてたまらぬところを、ギョツと押へてなる丈楽しさうに暮してゐるのでせう。ですから「そんなに云ふと本気にやるぞ」などと、此の前のように恐ろしい事を云はないで、すこしは慰めて下さい。あなたのいい仕事のためにはどんなにでもがまん致します。

あなたのブランティションは内容濃厚につき、ノオトへ要約など中々で長くなりますから、たつぶり時間がないととても進まないのです。それなのに忙しいのでくさつてしまひます。

ではとりいそぎ。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年一〇月二〇日の記）

御申越の天文講座の中一冊御送り致しました。外に御入用あつたら、御遠慮なくと申上げて下さい。

十月廿日

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月二〇日付け）\*

10のお手紙落手。

今日の手紙は100点の手紙と云ひたいけど95点にします。此のごろ中で一番いい手紙で、心からの満足感を与へられました。本当にうれしかつた。どうもどうも有難う。

ブランティションのことお叱りですが、私、ちつとも恐縮しないでよめました。だつて私は此のいそがしい中から、どうかすると十二時、一時までもよんでセッセとノオトをとつて勉強してゐたんですもの。だからおかしき位、安心してしまひました。私ね、うんとく消化化してから、感想を書いて送らうと思つて―それにどうもちつとも暇がとれないので、亀の子よりも歩みがおそく、ノオトはたつぶりあるから、短い時間でチヨコくあはた（お）だしい走り読んか出来ませんもの。前便にも書きましたが、まつたくあなたの文章と云ふのかしら構成は、内容が充実してゐるから、要約とかまとめとか一口にノオトが取れないんです。たいてい一こまづつ読んでラインをして、終るともう一度ゆつくりよみ返し、三度目にノオトをすると云ふ風にやつてゐますので、それはくゆつくりしか進めません。たとへば第二章第四節四―から後は一ツづつが4―6ページ位のノオトになります。私、毎日共に語る人もゐない乍ら、皆のね静まつた家中で、あの六畳で、唯一人灯をつけて一生懸命やつてゐるんです。どうぞ怒つたのは、止めてほめて下さい。

第四節四からはすばらしく面白くなりますが、同時にあまりに悲痛な事実で、胸の中がしめつけられる様になります。思はず長いため息が出て来ます。殊にシエア・クロツパーユニオンの要求条項の中の、(四)黒人の子供の九ヶ月の学校の

要求、のあたりをよむ時は涙がこぼれる位でありました。それからクロッパの姿―は、何故だか日本の農民よりも、日本人の妻の姿が頭にたえず浮びました。類似してゐる点が多い様な感じがするのです。

プリンティション制度の事は私がよく話するので、ふうちゃんも朝ちゃんも私位の程度には知識を持つて来てゐます。私は何かの時、チヨイ／＼話す事によつて、ます／＼はつきり把める様な気がしてゐます。それからお父さんもしきりにアメリカ関係をシゲキされ、種々よんでゐますし、此の間のダイヤモンドの米國戦争政治と南部問題は、今よみかけて居ります。まだ皆、ほんのしらうとではあります、あなたのプリンティションは関心を持つてゐるのです。朝ちゃんも読みたいと思ふと云つて居ります。それから前に書いたWさんにもプリンティションの話をしたところ、是非よみたいと云つて、あなたの本の出るのを彼も又、まつてゐる一人なんです。

だから前、私の云つた文章の六つかしさも、すこしのがまんで直なれて来ます。そして、この内容ではこれ以上の書き様がないのだと思へて来ます。あれを短く切つたとしたら、内容の高い盛上りを目茶／＼に破る事になるでせう。□まんな文章を読みなれてゐると―即ち内容の稀白な―、あなたのぎつしりと詰り盛り上り高まつた内容についてゆくのが苦しみになるのです。あなたの云ふ叙述力の貧困どころか、其の逆なのです（今井先生だつて、ほめたではありませんか。今井先生は筆力とか仰言つたが、筆力と云ふのは文字通りでなしに、問題が消化され考へつくされ、著者の心からのほとばしりだのいみでせう）。研究社のに書いたアメリカ史もさうです。あれをよんでファランドなり、アダムズのアメリカ史に移ると、（原稿の枚数の長い短いはあるが）一寸木の少い砂漠地帯へ来た様な感じがするのです。そしてファランドでもアダムズでも、あまり思考力の努力なしに読み流せるところが感じられて来る。つまりあなたのは、あなたのつかんでゐる問題の高まりが感じられて―（どうも云ひあはしにくい）―いかげんな態度では読み切れぬこと、その代り読者も著者と同じ位に対象に惹きつけられた時は、エリ首をキュツとつかんで、提出されてゐる問題の中へ引きこまれるように、同じ様にその問題に執着せずにはゐられなくなるのです。

それからもう一つ、此のころになつて感じだした事は、あなたの書いたものは、孤立したものを感じさせぬと云ふことです。宙に浮いたものでなく、社会のいろんな面と必ずぬきさしならぬ事実と結ばれてゐることを感じるので。まだ半分しか読めませんが（これは本当に悲しい事なのよ。暇がないんですから）、それで私の感想では、あなたを悲観させた様な「反響を得られぬ」などと云ふ事は決して／＼ありません。真面目な読者がきつと満足すると思ふ。新聞批評なんかどうかわかりませんよ（それは私、問題外なの）。必ず本当にあなたの提出した問題に食ひつく永久の読

者を、ある程度得られると思ひます。其の眞価も年月を経る程、表れて来るのではないか。流行書にはなれないだらうが、バルザックの云ふ良書、長い生命を持つ良書の一つだと心から信じます。

何故私はあれをあなたが書いてゐるころ、のぞきこまなかつたでせうね。何故あなたは強力に私を引きこまなかつたのでせう。あなたの遠慮か、中途半端か、あきらめかを今はむしろにくんでゐます。同時に私のム関心をも。あなたは本當に私に愛情を持つてゐてくれたら、さうすべきだつたんだわ。私に対して当然すべきだつた強力を中途で放棄し乍ら、他の娘たちにはそれを行ふ。まるでいけないぢやありませんか。かう云つたら、キューソ猫の例へになるかしら。キューソは勿論私よ。

私の手紙がおざなりだとのこと。私ね、あなたの此のごろの手紙があまり浮々とうれしうに自分たちの勉強、お弟子のすてきさ熱心さを宣伝するので、私を疎解（疎）しておまけに疎外してゐるわと思つて、とてもくゆううつで悲しかつたのです。そんなき持でゐるところへ東京からの手紙で、「あなたの旦那さんが美人とサつそうと歩きまはつてゐる。要小心せられよ」なんて云つて来る人もゐるし、N嬢も銀座で見えな感じがしました、と云つて来る。又聞いた話では「疎解して来た妻君が東京へ用事で行つたら、会社員の主人が会社の事ム員とアパートで暮してゐて、両方に子供が出来たので、妻君は自殺した相だ。あんたも気をつけなんしょ」と世話をやきに来る人もゐる、と云つたあんばいで、一時は私もメラソコリイで、御飯の量もへつた（但したつた一度だけ）なんて一わけで、何となく私をのけものにしてゐると悲観してゐて、ペンも重く手も動かず、一あんな手紙になりました。ごめんなさいね。

私は本當にあなたの愛情やゲキレイなしでは、一刻も生きる事が出来ないのです。あなたは本當に其の事を知つてゐて下さらなくてはいけません。若しもあなたが私をのけもの扱ひにし始めたなら、私はきつと死なうと思ふでせう。私は何時も床にはいると、ねむる前に必ずあなたの健康、あなたの仕事の安全を念じて、それから安心してねむるくせになりました。お多賀様（和歌山でもおまいりしたでせう）にも夕方の人目につかぬ頃に行つて拝んで来るんです。自分でもおかしいみただけれど一さうすればきつと戦争の危険も空襲も、私の願ひであなたを守るにちがひないと思はれて心が落ちつくのです。前記の様な不安で、あなたに心からなる手紙が書けなかつたのです。私はあなたを信じ、ほこりに思ひ、誠実を捧げて居りますし、あなたも又、私を信じ、誠実であつて呉れる事と信頼致して居ります。あなたの今日の手紙のヒナンの様な「ム関心」は、一日も持つた事はありません。

従つてあなたの新しい仕事へも又関心を持ち始めます。「マニフェスト・ドステイニイ」と云ふ合言葉は、南部問題

でお目にかかった言葉ですね。あの最後に出て来るアメリカ帝国主義の侵略のモットーですね。それに関係ある支那問題の資料は沢山あるのかしら。量はどれ位なもの、そして英文で書かなくちゃならないの？

それから私ね、廿六、七日頃、四、五日のヨ定で上京致します。医料器具の買ひものもあるし、ひき茶だの何だのと私の買ものもあるし、皆のたのまれものもあるし、第一に看護学の本を至急仕入れなくてはなりません。一応それらを片つけたら、土曜日頃、経堂の方へ訪ねたいと思ひますから、あなたのお弟子さんに紹介して貰つたり、竹中さんに逢つたりしたいと思ひますけれど、御都合どうかしら。上京したら一応電話でおき、致します。何かプランでもあつて、諸嬢たちと何処かゆく事にでもなつてゐたり、或は早川さんのところへゆくか、誰か訪ねて来る約束があるといけませんから。

そうして私自身のことでも相談もありますから、すこしゆつくり逢ひたいのです。泊るところは何処かまだきめませんが、内藤嬢の家（来たら泊るように云つてくれるので）かいねちゃんのところかによろしくと思ひます。私の帰るころに、一諸にあなたがこちらに来られたら理想的だけど。十一月中旬には私、和歌山へ行つて半月程暮さうと思つて、あちらのお母さんに約束してありますから。

小使ひのおかみさん、相当こわい人ですね。あなたは私で経験済みだから防弾チョッキなんかいらなくてせうよ。では今日はこれでおしまひ。

No.11も一諸に着きましたが、其の分のは明日。相当手紙に時間をとりましたから、プランテーションの時間が（併も貴重なる）うんとへりました。此のころば英語も経済もちよつとも出来ません。波多の経済は、今までやつたところ丈でも、あなたのプランテーションに随分役立つて居ります。

謙一様

幸子

※この手紙文は封筒に入っておらず、かつこれを認めた日時の記載もなかった。ただ幸子発書簡の別の束の中に、「昭和19年10月20日」付けの空封筒があり、手紙文の内容から、元はこの空封筒中であつたものと推測できるので、ここでは「一〇月二〇日付け」の手紙として掲載した。

## 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月二〇日の記）

十月廿日夜

さつき切手を五枚も貼った手紙を出して来たばかりです。あれから御夕飯、今日は何もなくて、菜っぱとにんぢんの葉っぱの胡摩合と漬物、椎茸と高野豆腐のお汁でしたが、何時になく旨しく食べました。それからお風呂、早苗ちゃんも這入りました。ブラツシユにシヤボンを沢山著けて早苗が脊中を洗つて呉れました。お湯の中に軽石を浮べたりして大騒ぎをして洗ひました。家の猫達、黒も赤もどう云ふ訳か、人がお湯に這入ると直ぐついて来て、湯船の周りの狭いふちをまはつて、さもく一諸に這入り度いと云ふ様子を示します。落ちて来さうで危いつたらありません。猫の方は誤つて落ちて見たら、それも一寸面白いかも知れないと思つてゐるみたいに見えます。

お母さんは隣の下平のお婆アさんと石橋童謡と三人で豊川様へ明日行きますので、火鉢では持つてゆくお握りを焼いて居ります。お母さんにお餞別を五円あげて、私の事をいろいろ沢山拝んで来て下さいと頼みました。

プランティションの時間ですが、今日は其の時間へすこし食ひ込んだつて、直ぐ取返せる自信が有るのです。あなたの手紙がそれ程の大きな力を持つてゐるのです。あなたの私への関心の如何は、それ程私に大きな力を与へるのです。貴方が二番せんじの様な内容の手紙を下さる時は、私の世界全体が鈍い色に変つてしまひます。精神状態は忽ち停滞し、一切がとまつてしまひます。私は此のごろ、どんなにあなたとの一諸の暮しを求めてゐるでせう。一諸の勉強生活を。

皆と自分の当面の関心事を語る時、これがあなたで有つたらと思はずにはゐられません。本当に共感を求める心切実です。それなのにかうして事実上の自立性のない不安定な生活を続け、あなたのはげましや共感なしに、人のね静まつた夜、ねむさも疲れも忘れて勉強する時、心からの孤独を感じ、あなたの手紙丈を唯一の寄りどころとして暮して居るのです。だからあなたの手紙を何辺つづ読み返す事です。さうしてねむる前にはもう一度必ず読んでゐました。だからあなたの手紙から言葉や文字に表現されてゐない部分をも感ずる事が出来、心から書いてくれたものと、お義理の出しがらの心情とはすぐに感じられ、それが大きな影響を与へるのです。

此の頃のあなたの手紙はずつと何日何をしたとならべてある丈、そこからあなたの愛情を感じる事は出来ませんでした。唯、私には目もくれない、あなた丈の楽しさがヒラ／＼とひるがへる丈でした。そんな手紙を読んで、一私は目の前が